

VIUUM MIDDLE

ホルトス

用ひやうけ傳

三千百番

△朝三粒△昼三粒△夜三粒 昼夜怠なく十曾用ると廻と定む。則上包大能書願以病忘
 何れも重き二度五粒用也。但小兒老人利方應ト見合少令用也。右の通
 病の輕き重き隨ひ用いて大便ゆる小便濁る茶相應るなり。又忘よりて
 下腹少一痛事つばた強くも氣はさかれば皆是ホルトスの効能頭も
 所なり右れも用いても其驗なきは弥病根深しと心得益茶を増用まば大へん
 ゆる小便濁るを病去行とまば老病又懐妊ともいさう氣づふ事ふ

△天能書一奉る渚症多く發ると四季の依れ大と地るとつり。掻き五六つ
 重き十粒余も二度用也。忽ち胸を開き痰を治め苗飲をば積塊を解連て小便
 えて後後掻重隨ひ用也。又痰苗飲積氣ホの持病つる此もつて全快せ其後
 常く持茶服まば諸病ゆるとは又捨置とれ見者寒又温とくけ病再つる也
 此更くみて心得置(尤も大便ゆるも多年服用する時大便ゆるまば節氣
 味づは小便常ゆるも是金く病除行かれ心を付て効能のまばつるまば

△此藥病掻き半廻り又二廻りて全快とるも重た症ありて其まう合は治と
 とつとも中途そ茶とまば二廻り續く病の添き(並用也)全快とるも物
 け近たなう蘭人常雜庶家の類を食物に大禮の牛を割て蝦食をば尤身と
 勞せは肉食とまば酒又も厚れも痰苗飲積氣と病と曾てなれをば
 則此ホルトスを持茶服まばの徳なる日本又斯のく肉食せば身命を保くまば

△喘息勞咳氣腫脹滿膈症の類元これ痰飲の苗滞する由なり去とる今
 此ホルトスを用いて根をさう令候まばこれの忘はてはさき雜治の忘は三ヶ月
 中へ半季一年忘よりて八年をまう用也。次第病根を退け治らるホルトス
 の妙なり法病とも年久き病茶用とる半途中り歩とる却病跡へり
 根を断はる病者よく弁へ服茶足らば茶の奇効をまむるまば

△價銀銀八匁大包七士粒入正銀銀中包三五粒入正銀銀小包十六粒入正銀銀
 根元長崎觀生堂監製表諸國取引所 大橋喜兵衛

